

コウノトリ 年表

年代	県全体での出来事	県の動き
1956(昭31)	国の特別天然記念物に指定される	
1964(昭39)		「県の鳥」に選ばれる
1966(昭41)	県内で唯一確認されていた小浜市国富地区から姿を消す	
1967(昭42)		公募により「県の鳥」がツグミに変更される
1970(昭45)	白山・坂口地区にくちばしの折れたコウノトリが飛来。「コウちゃん」の愛称で親しまれる	
1971(昭46)	日本の野生コウノトリが絶滅(5月)	白山地区のくちばしの折れたコウノトリが衰弱したため捕獲し兵庫県豊岡市の飼育場に移送。「武生」と名前を変更(2月)
2005(平17)	福井市鶉にコウノトリ飛来	
2009(平21)	越前市白山・坂口地区に「コウノトリ呼び戻す農法部会」発足(1月)	
	福井市鶉にコウノトリ飛来(12月)	
2010(平22)	越前市白山地区にコウノトリ飛来(4月)	西川前知事と兵庫県知事が福井県でのコウノトリ放鳥に合意
	越前市が「コウノトリが舞う里づくり大作戦」を展開	
2011(平23)	越前市が「コウノトリが舞う里づくり構想」策定(3月)	兵庫県のコウノトリ野生化対策会議で放鳥計画表明(2月)
	越前市白山地区に人工巣塔を設置(8月)	コウノトリ親鳥飼育方針表明(9月)
		「コウノトリ定着推進会議」設置(11月)
		兵庫県から譲り受けたコウノトリのつがいを越前市白山地区で飼育繁殖する事業を開始(12月)
2012(平24)	コウノトリが越前市の「市の鳥」に選ばれる	「SATOYAMA国際会議」誘致表明(5月)
2013(平25)	「SATOYAMA国際会議」開催(9月)	白山地区で飼育のコウノトリペアが産卵(無精卵)(5月)
		里山里湖海研究所 開所(10月)
2014(平26)		同コウノトリペアが産卵(無精卵)(5月)
		兵庫県から別ペアの有精卵を譲り受けて托卵させ、ヒナ誕生に成功(6月)
2015(平27)		同コウノトリペアが産卵(無精卵)(5月)
		昨年誕生のヒナ2羽を放鳥(10月)
2016(平28)		同コウノトリペアが産卵。無精卵だったため別ペアの有精卵を托卵させ、ヒナ誕生に成功(5月)
		誕生したヒナ2羽を放鳥(9月)
2017(平29)		同コウノトリペアが産卵。無精卵だったため別ペアの有精卵を托卵させ、ヒナ誕生に成功(5月)
		誕生したヒナ2羽を放鳥(10月)
2018(平30)		同コウノトリペアが産卵。3羽のヒナが誕生(5月)。
		誕生したヒナ3羽を放鳥(9月)
2019(令1)	兵庫県豊岡市で巣立ったペアが坂井市春江町で繁殖、4羽巣立ち	
2020(令2)	越前市で放鳥されたオスが兵庫県豊岡市で巣立ったメスとペアになり、越前市白山地区で繁殖。4羽巣立ち	
2021(令3)	白山地区のペアに加え、豊岡市で巣立ったペアが坂口地区で、兵庫県養父市で巣立ったオスと島根県雲南市で巣立ったメスのペアが小浜市国富地区でそれぞれ繁殖。計7羽巣立ち	
2022(令4)	白山地区と坂口地区、国富地区のペアと、越前市で放鳥されたオスが豊岡市で巣立ったメスとペアになり鯖江市吉川地区でそれぞれ繁殖、計12羽巣立ち	
2023(令5)	坂口地区と国富地区のペアに加え、越前市で放鳥された別のオスと豊岡市で巣立ったメスのペアが白山地区で、越前市で巣立ったオスと豊岡市で巣立ったメスが吉川地区でそれぞれ繁殖、計13羽巣立ち	一定の成果を得たとのことで「コウノトリ定着推進会議」を終結
2024(令6)	昨年の白山地区、坂口地区、国富地区、吉川地区のペアに加え、小浜市で巣立ったオスと徳島県鳴門市で巣立ったメスのペア、小浜市で巣立った別のオスと足輪のないメスのペアがそれぞれ繁殖、計15羽巣立ち	

2018年までに放鳥された9羽は現在6羽が生存、令和7年1月時点で越前市や兵庫県、石川県で繁殖が確認されています。
 福井県内では令和6年までに55羽のコウノトリのヒナが巣立っています。